

株主のみなさまへ

第84期

年次報告書



平成18年4月1日から平成19年3月31日まで



森永乳業株式会社
証券コードNo.2264

経営方針

当社グループは、「乳の優れた力を基に新しい食文化を創出し、人々の健康と豊かな社会づくりに貢献する」を経営理念としております。この実現のため当社ブランドに対する信用のさらなる向上をめざし、お客様志向の徹底と品質第一主義、成長事業への重点投資、基盤事業での収益力確保、グループ経営の強化を基本方針とし、一層の事業拡大をはかってまいります。

CONTENTS

- 1 経営方針
- 2 株主のみなさまへ
- 3 事業の概況
- 7 研究開発活動
- 8 環境保全・社会貢献活動
- 9 財務ハイライト
- 11 連結財務諸表
- 13 個別財務諸表
- 14 トピックス
- 15 商品のご紹介
- 23 ネットワーク
- 25 会社概要
- 26 株式情報



株主のみなさまへ

ごあいさつ

株主のみなさまには平素格別のご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。

当社第84期(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)の事業の概況をとりまとめましたので、ここに本報告書をお届け申し上げます。

よろしくご高覧賜わりますようお願い申し上げます。



森永乳業グループは平成20年3月期をスタートとする新中期経営計画を策定いたしました。新中期経営計画は、「乳の優れた力を基に新しい食文化を創出し、人々の健康と豊かな社会づくりに貢献する」という経営理念のもとで、一層の経営と業務の効率化に注力し、6つの経営課題に取り組んでまいります。具体的には「事業戦略の明確化」、「差別化商品の開発・育成体制の整備」、「ローコストオペレーションの推進」、「資産圧縮と財務体質の改善」、「人財マネジメントの推進」、「経営品質の向上」であります。また、業績目標としては、最終年度の平成22年3月期において、連結売上高6,000億円、連結経常利益200億円を達成することをめざしております。

この計画の下に本年は、伸ばすべき商品の売上拡大による収益力向上、差別化商品の開発力強化、ローコストオペレーションの実現などを重点課題として取り組んでまいります。

販売面では、乳飲料・ティー、ヨーグルト、デザート、チーズ、アイスクリーム、機能素材、業務用食品、流動食、宅配を売上拡大分野と定め、積極的に拡売をはかってまいります。生産面では、西日本地区での最新鋭の基幹工場として、神戸工場が昨年5月から稼動し、現在はチルドカップ飲料、流動食、ヨ

ーグルトを生産しております。また、国産チーズ増産のために昨年11月、別海工場敷地内に新チーズ製造棟の建設に着手いたしました。さらに、今秋に東北地区での新しい基幹工場として宮酪乳業株式会社の新工場が市乳の生産を開始する予定でございます。研究開発面では、昨年12月に基礎研究を集中的に進めるために食品基盤研究所を新設し、食品総合研究所および栄養科学研究所は商品開発機能に特化し、商品開発をより効果的に運営できる体制として再構築いたしました。一方、生産、販売、物流、管理など各処でローコストオペレーションの徹底をはかっております。

また、お客様に安全、安心な商品を提供する品質保証体制の一層の強化にも取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、変らぬご支援、ご指導を賜わりますようお願い申し上げます。

平成19年6月

代表取締役社長 古川 純一

事業の概況

◆ 森永乳業グループ当期の概況

当期のわが国経済は、企業収益の改善等を背景に民間設備投資が引き続き増加し、輸出も好調に推移するなど、景気は緩やかな回復が続きました。しかしながら、個人消費は伸び悩み、本格的な回復にはいたりませんでした。

食品業界におきましては、輸入原料の価格高および円安などの影響で原材料価格が上昇する一方で、企業間の販売競争の激化により、依然として厳しい経営環境が続いています。

乳業界におきましては、生乳の生産量は、北海道を中心に減産計画が実施され、前年を下回りました。飲用牛乳の生産量は、他飲料との競合や天候不順の影響などにより牛乳、加工乳とも前年を下回りました。なお、乳飲料およびはっ酵乳の生産量は前年を上回りました。一方、乳製品需給は、業界をあげての取り組みにより、過剰傾向にあった脱脂粉乳やバター在庫削減が進みました。

このような環境の中で、森永乳業グループは、お客様のニーズに応えた商品の開発、改良に努め、効率的な販売促進活動を展開するとともに、原材料価格の上昇を吸収すべく、ローコストオペレーションの徹底をはかってまいりました。

これらの結果、当期の連結売上高は5,782億5千7百万円（前年比4.7%増）となりました。利益面におきましては、営業利益は106億2千3百万円（前年比16.4%増）、経常利益は125億3千5百万円（前年比10.9%増）、当期純利益は53億2千9百万円（前年比39.7%増）となりました。

◆ 森永乳業グループ部門別の状況

部門別の状況（部門間取引消去前）は次のとおりです。

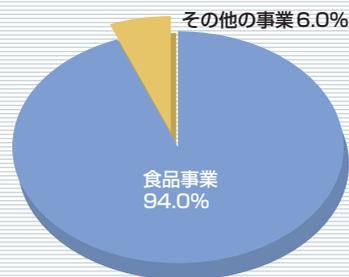
食品事業（市乳、乳製品、アイスクリーム、飲料など）

当期の売上高は、5,544億7千8百万円（前年比5.1%増）となり、また営業利益は296億8千7百万円（前年比9.6%増）となりました。

その他の事業（飼料、プラント設備の設計施工など）

その他の事業につきましては、売上高は351億8千5百万円（前年比12.6%増）、営業利益は39億9百万円（前年比67.1%増）となりました。

■ 連結部門別売上高構成比



◆ 個別売上高の状況

当期の売上高は、4,400億1百万円（前年比2.7%増）となりましたが、当期より酪農飼料販売を連結子会社に移管しており、これを考慮すると実質5.5%の増収となります。利益面では原材料価格の上昇、製造経費の増加や酪農飼料販売の連結子会社への移管による利益減少の影響などもありましたが、営業利益は49億5千2百万円（前年比4.2%増）、経常利益は76億1百万円（前年比3.9%増）となりました。当期純利益は30億2千1百万円（前年比11.4%増）となりました。

また、財団法人ひかり協会に対する負担金として、当期は16億9千3百万円を支出いたしました。

● 市乳

牛乳類は、飲用牛乳の消費低迷の影響を受けたものの、「森永のおいしい牛乳」が前年を大きく上回ったことから、全体で

は前年並みの売上となりました。

乳飲料は、新商品「カフェラッテ プレミア」が加わり、カップ飲料のマウントレニアシリーズがさらに売上を拡大するとともに、「リプトンミルクティー」も堅調に推移し、前年を大きく上回る売上となりました。

ヨーグルトは、「アロエヨーグルト」が前年を下回りましたが、プレーンタイプ、ハンディタイプや4Pタイプのフルーツヨーグルトが好調に推移したことから、ヨーグルト全体ではほぼ前年並みの売上となりました。

プリンは、主力商品である「焼プリン」に加え、「プティボとろふわプリン」や「素材の仕事人」などの新商品が売上に貢献したことから、前年の売上を上回りました。

これらにより、市乳の売上高は2,054億9千3百万円（前年比5.7%増）となりました。



事業の概況

● 乳製品

調製粉乳は、出生数は下げ止まっているものの国内市場が縮小傾向のなかで、「森永ドライミルクはぐくみ」などの拡売をはかり、前年並みの売上を確保しました。業務用の脱脂粉乳は好調でしたが、家庭用スキムミルクの前年の大幅な伸びの反動もあって、粉乳全体では前年を下回る売上となりました。

チーズは、クラフトブランドの「スライスチーズ」、「切れてるチーズ」や「6Pチーズ」などの家庭用チーズは前年を上回り、業務用チーズも前年の売上を確保したことから、チーズ全体では前年を上回りました。

これらにより、乳製品の売上高は、932億2千4百万円（前年比3.5%増）となりました。



● アイスクリーム

主力商品の「ピノ」や「MOW（モウ）」がシリーズの強化により売上を拡大し、また「PARM（パルム）」も順調に伸長したことから、アイスクリーム全体の売上高は443億5千6百万円（前年比10.5%増）となりました。



● その他

飲料は、リプトンフルーツティーやサンキストジュースなどが好調に推移したことから前年を上回る売上となりました。流動食も引き続き前年を上回って好調に推移しました。

なお、酪農飼料販売を当期から連結子会社に移管したため、その他全体の売上は前年を下回り969億2千6百万円（前年比6.8%減）となりました。



◆ 次期の見通し

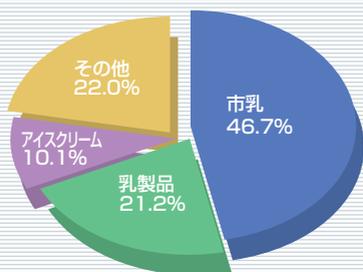
平成20年3月期の連結業績予想につきましては、売上高5,900億円（前年比2.0%増）、営業利益119億円（同12.0%増）、経常利益135億円（同7.7%増）、当期純利益51億円（同4.3%減）を見込んでおります。

平成19年度のわが国経済は、好調な企業収益に支えられ、緩やかな景気回復が続くものと予想されます。しかしながら、個人消費の本格的な回復にはなお時間を要するものと思われま

す。食品業界におきましては、消費者のニーズが多様化する一方で、低価格志向が継続し、引き続き厳しい販売競争が見込まれます。また、BRICS諸国の旺盛な需要等により輸入原料の価格が上昇し、原油価格や包材価格が高止まる懸念が残り、経営環境はいぜん厳しいと思われま

す。こうしたなかで、当社グループは引き続き成長分野への重点投資や商品構成の改善、業務改革の推進などにより収益力の改善をはかってまいります。

■ 個別品目別売上高構成比



研究開発活動

■ 研究所の組織改正

昨年の12月1日に研究開発部門の組織改正を行い、従来の各研究所が行っていた基盤研究のテーマを集約し、新たに「食品基盤研究所」を設立いたしました。食品基盤研究所は、「おいしさ」や「健康」に関する乳や食品本来のもつ機能を科学的に解明し、その研究成果を独創的で付加価値の高い製品の開発に展開していくことを方針としております。

また、研究開発スピードを迅速にするとともに、製品の安全・安心に向けた取り組みをいっそう強固なものにしていくため、食品総合研究所、栄養科学研究所、分析センターについても再編を行いました。

今回の組織改正により、専門性と広範囲の知識・経験を有する人材を育成し、研究成果をより効果的に発揮できる研究開発体制といたしました。今後も研究者がさらにモチベーションを高め、創造性あふれる研究所として発展できるよう取り組んでまいります。



■ ラクトフェリン

森永乳業では、母乳の機能に近い育児用ミルクの開発に取り組むなかで、乳に含まれるラクトフェリンの持つ働きに着目し、研究を重ねてまいりました。ラクトフェリンはヒトや動物の母乳やだ液、涙、血液などに含まれる多機能たんぱく質です。ラクトフェリンの機能としては、さまざまな細菌に対する抗菌作用が古くから知られておりますが、ヒトにおけるラクトフェリン摂取の研究に関し、これまでに乳児（低出生体重児）における腸内フローラ改善効果や、成人の貧血予防効果などに関する臨床研究を行い、学会で報告を行っております。さらに近年では、抗ウイルス効果や大腸ポリープ進展抑制効果、歯周病菌抑制効果などが確認されております。

また、当社はラクトフェリンを本来の性質を保持したまま高い純度で抽出する技術と、変性しない殺菌技術の開発に成功し、これらの業績に対して平成15年度文部科学大臣賞が授与されました。

今後も当社はラクトフェリンやビフィズス菌BB536などの機能性素材の研究を進めてまいります。



環境保全・社会貢献活動

■ 環境マネジメント(環境経営)システムへのとりくみ

森永乳業は環境に配慮し、社会に貢献する企業であることを経営方針のひとつに掲げ、1993年に環境保全業務要領および環境方針を定め、環境保全に対する取り組みを推進してまいりました。1998年からは、ISO14001認証取得を推進し、神戸工場を除いた自社全工場と本社、全研究所、東西の市乳センターおよび4関連会社で取得しております。

また、当社グループの生産会社については、環境省が策定した「エコアクション21」の認証・登録の取り組みを進めております。

■ 自然エネルギーの利用について

森永乳業ではさまざまな環境活動の一環として自然エネルギーの利用に取り組んでおります。自然エネルギーは太陽光や風力、水力、バイオマスなど再生可能な資源を利用して生みだされたエネルギーです。その活用事例を紹介いたします。

1. 太陽光発電

東京多摩工場のリサイクルセンター屋上には太陽光発電装置が設置されております。平成15年2月から運用が開始され、1年間で約4万kWhの発電が見込まれています。これにより約22tのCO₂削減に貢献しております。

2. ハイブリッド小型風力発電

研究・情報センターと神戸工場に設置された小型風力発電装置は太陽光発電パネルもセットされており、晴れた日は太陽光で発電も可能で、自然の力を効率よく利用できるよう工夫されております。研究所と神戸工場それぞれ年間でおよそ100/300kWhの発電で

あり、両者を合わせておよそ200kgのCO₂を削減することができます。

3. 小型水力発電

神戸工場では排水処理設備から放流される水量の一部を使って水力発電を実施しております。この装置では1分間に300L~1,000Lの水を利用して、1年間に790kWhの発電が見込まれており、これにより約440kgのCO₂を削減することができます。排水処理された水は発電の他、工場緑地への散水やトイレの流し水としても再利用されております。

4. グリーン電力購入

再生可能な自然エネルギーを利用して発電したグリーン電力に、バイオマスを利用した発電も近年利用が盛んになっております。神戸工場では酪農家の家畜糞尿を利用したメタンガスはっ酵発電の電力を購入しております。これにより酪農家の活動を支援するとともに自然エネルギーの推進に協力いたします。1年間に50万kWhを購入しており、これはおよそ280tのCO₂削減に相当します。



■ M's Kitchen (エムズキッチン)

森永乳業では、2003年から一般消費者のお客さまを対象にした、出張スタイルの料理教室「M's Kitchen (エムズキッチン)」を開催しております。講師派遣費用と食材費用の一部を森永乳業が負担、牛乳や乳製品を生かしたメニューをご紹介します、お客様とのコミュニケーションも大切に活動を行っております。2006年度は全国で862回、延べ25,749名のご参加をいただいております。

また、「食育」に対して食品メーカーとして何ができるかを考え、このエムズキッチンのなかに、子どもたちと一緒に料理を作るのできるメニューを取り入れた「M's Kitchen Kids (エムズキッチン・キッズ)」活動をスタートさせております。このなかでは、食事の大切さを伝えるための「おもしろ食育講座」や、自分たちの目、鼻、手、耳、舌でおいしいメニューを完成させる「五感を使って料理にチャレンジ!」などの独自のプログラムを用意しております。

次世代を担う子どもたちが、自分で料理をすることにより、食の大切さや、食を選択する判断力を身につけ、健やかな成長のための正しい食生活を維持していくことができるよう、応援しております。

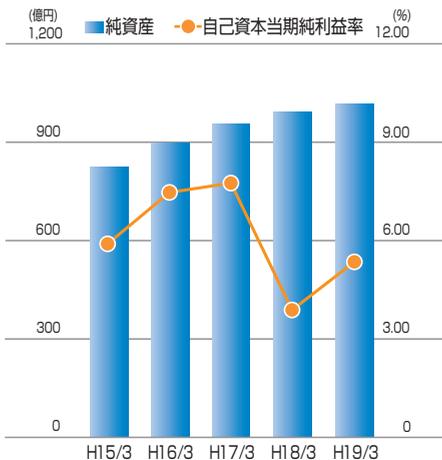


財務ハイライト

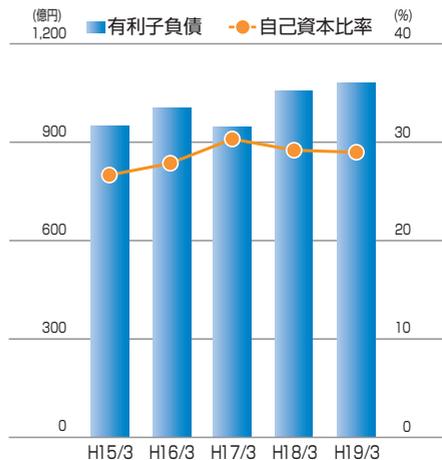
● 総資産/総資産経常利益率



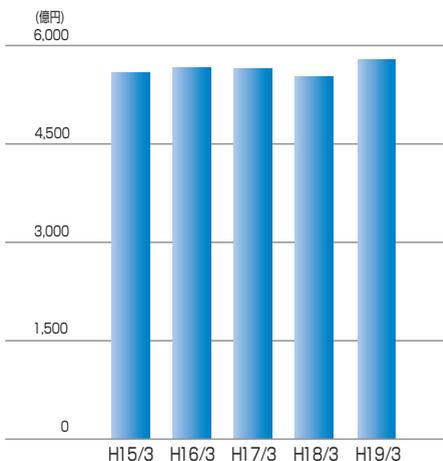
● 純資産/自己資本当期純利益率



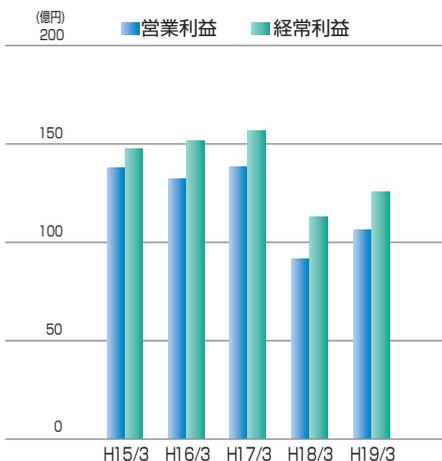
● 有利子負債/自己資本比率



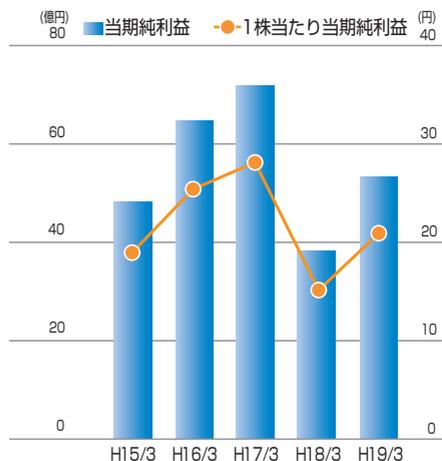
● 売上高



● 営業利益/経常利益

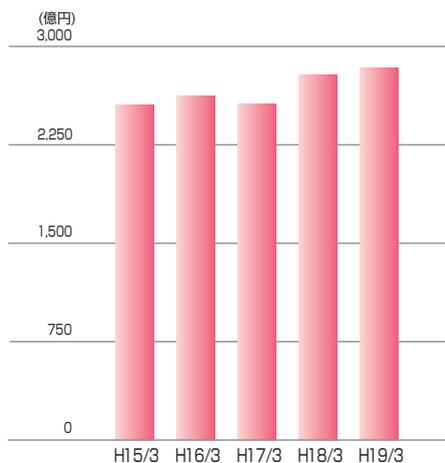


● 当期純利益/1株当たり当期純利益

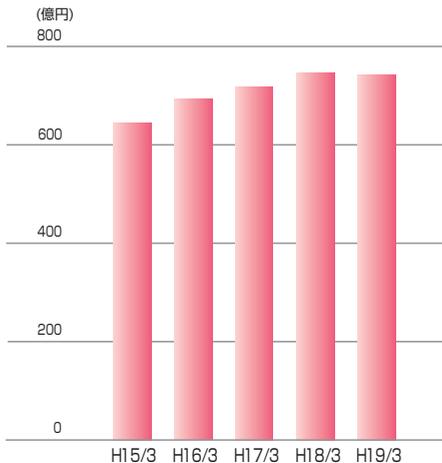


単体

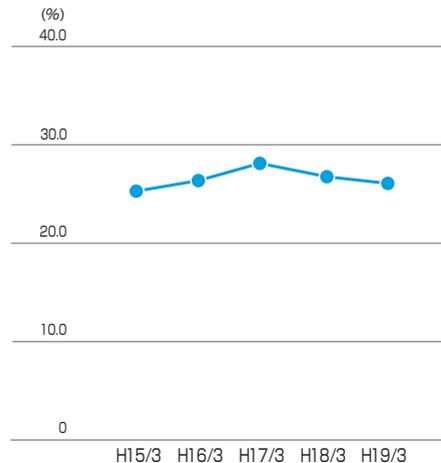
● 総資産



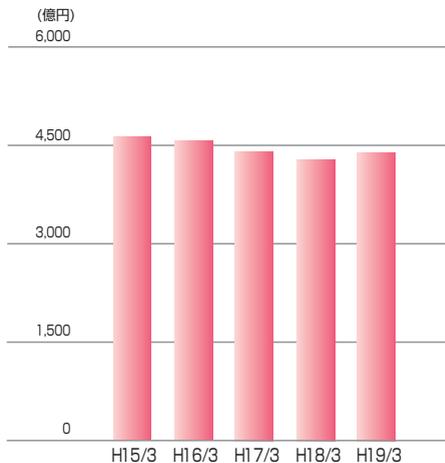
● 純資産



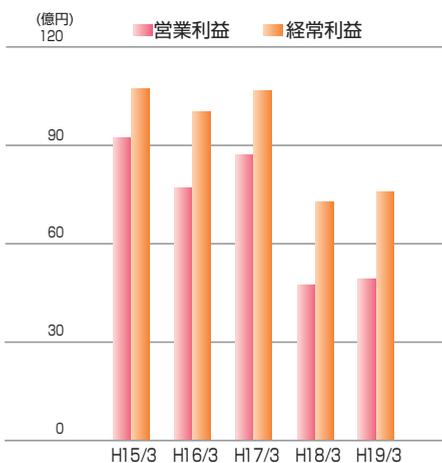
● 自己資本比率



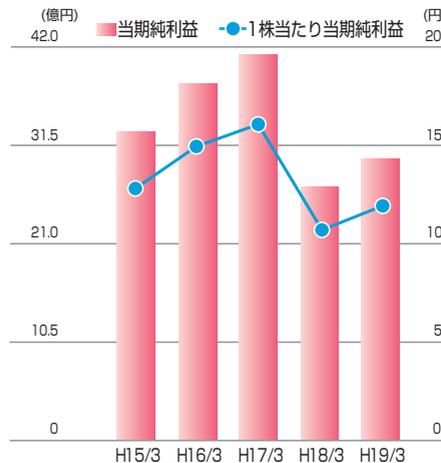
● 売上高



● 営業利益/経常利益



● 当期純利益/1株当たり当期純利益



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円未満切捨て)

	当連結会計年度 (平成19年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成18年3月31日現在)
■ 資産の部		
流動資産	114,227	117,349
固定資産	228,745	222,107
有形固定資産	180,855	170,065
無形固定資産	3,555	3,537
投資その他の資産	44,335	48,503
資産合計	342,972	339,456
■ 負債の部		
流動負債	148,127	140,268
固定負債	93,038	97,402
負債合計	241,166	237,670
■ 少数株主持分		
少数株主持分	—	2,336
■ 資本の部		
資本金	—	21,704
資本剰余金	—	19,452
利益剰余金	—	52,458
その他有価証券評価差額金	—	6,000
為替換算調整勘定	—	142
自己株式	—	△ 308
資本合計	—	99,449
負債、少数株主持分及び資本合計	—	339,456
■ 純資産の部		
株主資本	95,720	—
資本金	21,704	—
資本剰余金	19,453	—
利益剰余金	54,936	—
自己株式	△ 373	—
評価・換算差額等	3,971	—
新株予約権	38	—
少数株主持分	2,076	—
純資産合計	101,806	—
負債純資産合計	342,972	—

◆ 流動資産

現金及び預金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ、31億2千2百万円の減少となりました。

◆ 固定資産

神戸工場を中心とした設備投資の増加などにより、前連結会計年度末に比べ、66億3千8百万円の増加となりました。

◆ 流動負債

当連結会計年度末が金融機関の休業日にあたったことによる支払手形及び買掛金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ、78億5千9百万円の増加となりました。

◆ 固定負債

長期借入金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ、43億6千3百万円の減少となりました。

◆ 営業利益・経常利益

原材料価格の上昇はありましたが、売上高の増加や各種費用の抑制などにより、売上高営業利益率も1.8%と前連結会計年度より0.1ポイント改善し、営業利益は14億9千2百万円の増益、経常利益は12億2千9百万円の増益となりました。

◆ 当期純利益

営業利益、経常利益が増加したことに加え、特別損益も前連結会計年度に比べ改善したことから15億1千4百万円の増益となりました。

◆ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業収入の増加や法人税等の支払額の減少などにより、前連結会計年度に比べ98億6千2百万円増加いたしました。

◆ 投資活動によるキャッシュ・フロー

神戸工場を中心とする固定資産の取得による支出が増加したことなどにより、前連結会計年度に比べ119億3千2百万円減少いたしました。

◆ 財務活動によるキャッシュ・フロー

設備投資資金の借入れ減少などにより、前連結会計年度に比べ85億7千7百万円減少いたしました。

■ 連結損益計算書 (単位：百万円未満切捨て)

科 目	当連結会計年度 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)	前連結会計年度 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)
売 上 高	578,257	552,171
売 上 原 価	407,275	389,006
売 上 総 利 益	170,981	163,164
販売費及び一般管理費	160,358	154,034
営 業 利 益	10,623	9,130
営 業 外 収 益	3,739	3,881
営 業 外 費 用	1,827	1,705
経 常 利 益	12,535	11,305
特 別 利 益	2,596	4,242
特 別 損 失	4,916	6,872
税金等調整前当期純利益	10,215	8,676
法人税、住民税及び事業税	4,087	3,076
法人税等調整額	620	1,668
少数株主利益	176	115
当 期 純 利 益	5,329	3,815

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円未満切捨て)

科 目	当連結会計年度 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)	前連結会計年度 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,832	17,969
投資活動によるキャッシュ・フロー	△35,390	△23,457
財務活動によるキャッシュ・フロー	△166	8,410
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	35
現金及び現金同等物の増減額	△7,716	2,958
現金及び現金同等物の期首残高	11,268	6,625
連結子会社増加に伴う現金及び現金同等物の期首残高増加額	151	1,685
連結子会社合併に伴う現金及び現金同等物の期首残高増加額	55	—
現金及び現金同等物の当期末残高	3,759	11,268

■ 連結対象会社

◆ 連結子会社 (29社)
 エムケーチーズ (株)
 (株) デイリーフーズ
 東洋乳業 (株)
 他 26社

◆ 持分法適用会社 (7社)
 (株) 日酪
 他 6社

■ 連結株主資本等変動計算書 (単位：百万円未満切り捨て)

当連結会計年度 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)	株主資本					評価・換算差額等	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
平成18年3月31日残高	21,704	19,452	52,458	△308	93,306	6,142	—	2,336	101,786
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△1,519		△1,519				△1,519
当期純利益			5,329		5,329				5,329
自己株式の取得				△70	△70				△70
自己株式の処分		0		5	6				6
役員賞与の支給			△15		△15				△15
持分法適用会社決算期変更による減少			△32		△32				△32
連結子会社増加による剰余金減少			△106		△106				△106
持分法適用会社増加による剰余金減少			△1,178		△1,178				△1,178
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△2,171	38	△260	△2,393
連結会計年度中の変動額合計	—	0	2,478	△65	2,413	△2,171	38	△260	20
平成19年3月31日残高	21,704	19,453	54,936	△373	95,720	3,971	38	2,076	101,806

個別財務諸表

貸借対照表

(単位：百万円未満切捨て)

		当事業年度 (平成19年3月31日現在)	前事業年度 (平成18年3月31日現在)
■資産の部			
流動資産	流動負債	103,352	108,890
有形固定資産	固定負債	179,946	169,662
無形固定資産	負債合計	132,735	119,725
投資その他の資産		2,709	2,709
資産合計		44,500	47,227
		283,298	278,552
■負債の部			
流動負債	流動負債	137,695	130,270
固定負債	固定負債	71,586	73,633
負債合計	負債合計	209,281	203,903
■資本の部			
資本金	資本剰余金	—	21,704
利益剰余金	利益剰余金	—	19,488
利益剰余金	利益剰余金	—	28,176
利益剰余金	利益剰余金	—	3,529
利益剰余金	利益剰余金	—	18,857
利益剰余金	利益剰余金	—	5,789
利益剰余金	利益剰余金	—	5,588
利益剰余金	利益剰余金	—	△308
利益剰余金	利益剰余金	—	74,648
利益剰余金	利益剰余金	—	278,552
■純資産の部			
株主資本	株主資本	70,498	—
株主資本	株主資本	21,704	—
株主資本	株主資本	19,489	—
株主資本	株主資本	29,678	—
株主資本	株主資本	△373	—
株主資本	株主資本	3,479	—
株主資本	株主資本	38	—
株主資本	株主資本	74,016	—
株主資本	株主資本	283,298	—

損益計算書

(単位：百万円未満切捨て)

		当事業年度 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)	前事業年度 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)
科目			
売上高		440,001	428,627
売上原価		326,651	316,901
売上総利益		113,350	111,725
販売費及び一般管理費		108,397	106,973
営業利益		4,952	4,752
営業外収益		4,266	4,010
受取利息及び配当金		2,807	2,273
雑収益		1,458	1,737
営業外費用		1,617	1,448
支払利息		1,295	1,101
雑損失		322	346
経常利益		7,601	7,314
特別利益		2,458	3,886
特別損失		3,883	6,326
税引前当期純利益		6,176	4,874
法人税、住民税及び事業税		1,937	1,024
法人税等調整額		1,218	1,137
当期純利益		3,021	2,712
前期繰越利益		—	3,077
当期末処分利益		—	5,789

株主資本等変動計算書

(単位：百万円未満切り捨て)

当事業年度 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)	株主資本					評価・換算差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成18年3月31日残高	21,704	19,488	28,176	△308	69,060	5,588	—	74,648
事業年度中の変動額								
退職手当積立金取崩			—		—			—
固定資産圧縮記帳積立金取崩			—		—			—
固定資産圧縮記帳積立金積立			—		—			—
別途積立金積立			—		—			—
剰余金の配当			△1,519		△1,519			△1,519
当期純利益			3,021		3,021			3,021
自己株式の取得				△70	△70			△70
自己株式の処分		0		5	6			6
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						△2,108	38	△2,069
事業年度中の変動額合計	—	0	1,502	△65	1,438	△2,108	38	△631
平成19年3月31日残高	21,704	19,489	29,678	△373	70,498	3,479	38	74,016

トピックス

●「マウントレニア カフェラッテ プレミア」新発売

昨年10月に「マウントレニア カフェラッテ プレミア」を新発売しました。「マウントレニア カフェラッテ」は、1993年、缶コーヒーや紙パックのコーヒー飲料が主流であった市場に、当社がエスプレッソとミルクを組み合わせたチルドカップコーヒーとして発売した商品です。挽きたての豆をすばやく抽出、冷却し、チルド（冷蔵）状態で物流・販売を行うため、鮮度が高く豊かな香りや風味が特長となっております。

新発売のプレミアは、コーヒー感が強く、コーヒーショップで飲むような「淹れたてのコーヒー」の香りと味わいによりこだわった商品です。原料には当社のコーヒー鑑定士が厳選したエチオピア産のアラビカ種のモカを100%使用、製法には神戸工場に導入した当社独自の新技术を駆使しました。

「マウントレニア カフェラッテ」シリーズは、定番アイテムのマイルド、エスプレッソ²、ノンシュガーの3品に加え、モカやキャラメルなどの期間限定フレーバー商品2品、プレミア2品を展開し、現在では1日に100万本以上ご愛飲いただいております。



● 神戸工場が本格稼働

森永乳業グループの西日本地区の生産・物流拠点である神戸工場は、昨年5月にチルドカップコーヒーのマウントレニアシリーズの生産をスタートしました。現在はこのチルドカップ飲料、高栄養流動食、ヨーグルトを生産する6ラインが稼働しております。

神戸工場は地上5階建て、延べ床面積約66,400㎡の広さに、当社の最新鋭の技術、設備を導入し、当社の研究開発、エンジニアリング、製造技術、情報システム、物流システムを駆使することにより、新商品ならびに高品質な商品を提供してまいります。

省資源・省エネルギーをめざして、風力・水力発電といった自然エネルギーの活用を取り入れるとともに、自然冷媒の活用などによる環境に配慮した設備機器を導入しております。

また、地域社会に開かれた工場として、見学コース、コミュニケーションルーム、展示ルームを設置するとともに、付近には緑地帯を設け、見学に来ていただいた方に憩いの場を提供しております。



● 別海工場新チーズ製造棟増設工事がスタート

別海工場（北海道野付郡別海町）は昭和49年に稼働を開始し、森永乳業で唯一原料チーズを生産している工場です。別海工場において、昨年度のチーズ生産に使用した生乳量は7万トンに達しております。

新チーズ製造棟は、昨年11月に建設に着手いたしました。完成後は鉄骨作り一部2階建て、延べ床面積約13,300㎡の広さであり、平成20年春からの生産開始を予定しております。新工場がフル稼働しますとチーズ向け生乳量が年間で15万トンとなり、現在の約2倍のチーズ生産ができることとなります。

将来のチーズ事業拡大に対応した新チーズ製造棟であり、今後の新規需要の拡大に向け、生産効率と省エネルギー・省資源化に配慮した、最新鋭のチーズ工場となる予定であります。



Optics

商品のご紹介



チルドドリンク

森永のおいしい牛乳

牛乳にやさしい、
新製法で作った
新しいおいしさ。



森永のおいしい 低脂肪牛乳 (一部地区発売)

生乳100%使用。
新製法で作った、
新しい低脂肪乳。



森永のおいしい 無脂肪牛乳 (一部地区発売)

独自製法で作った、
しっかりとコクのある
新しい無脂肪乳。



ピクニックプリズマ

コーヒー/ストロベリー/フルーツ/ヨーグルトテイスト/カフェ・オ・レ
人気のピクニックがプリズマ容器でフルラインナップ。



ピクニック

ストロベリー/フルーツ/
ヨーグルトテイスト/カフェ・オ・レ
飲みごたえのある250mlシリーズ。

森永マミー

なつかしの味、
かわらぬおいしさ。



贅沢倶楽部

ミルクのコクが織りなす、
贅沢な味わい。



珈琲ミルク



莓ミルク



香りとコクの
エスプレッソコーヒー。



プレミアム
芳醇ラテ



プレミアム
薫るエスプレッソ



カフェラッテ



エスプレッソ²



ノンシュガー



キャラメルバニラ



カフェモカ



サンキスト100%
果汁にこだわったハイクラスなおいしさ。

New サンキスト ウォーター
ごくごく飲めるフルーツ&ウォーター。



オレンジ



アップル



グレープフルーツ



アゼラ
ウォーター



パッションフルーツ
ウォーター

SUNKIST GROWERS, INC.
のトレードマークライセンスにより
真乳菓の販売する製品です。
サンキストは
SUNKIST GROWERS, INC.
SHERMAN OAKS, CALIFORNIA
91423 U.S.A.の登録商標です。



リプトンが厳選した
紅茶と果汁、ミルクの
ハーモニー。



レモンティー



ミルクティー



ピーチティー



パイン
アップルティー



ストレート
ティー

商品のご紹介



チルドデザート



アロエヨーグルト

砂漠のフルーツ「カクタス」の果汁が入った、「赤いアロエヨーグルト」が仲間入り。
多彩なラインナップでますますパワーアップ。



アロエヨーグルト ハンディスタイル

朝の忙しい時間や仕事の合間に片手で簡単に食べられる、
スプーンいらすのヨーグルト。

はじめよう!高カルシウムヨーグルト ハンディスタイル

ナタデココヨーグルト

朝食、おやつにぴったり。家族みんなのヨーグルト。

角切りりんごヨーグルト



具たくさんフルーツとヨーグルト

驚きのフルーツ量に大満足の
ヨーグルトデザート。

ビヒダスヨーグルト

生きたまま腸まで届く
ビフィズス菌BB536配合。
特定保健用食品。

ラクトフェリン200 ヨーグルト/ドリンクタイプ

話題のたんぱく質
ラクトフェリン200mg配合。



焼プリン
ほろ苦いカラメルソースで、
飽きのこない味わい。



**たっぷりホイップ
クリームプリン**
なめらかカスタードプリンに
ホイップクリームを
たっぷりトッピング。



**たっぷりホイップクリーム
コーヒーゼリー**
香り豊かなコーヒーゼリーと
モカムースに、ホイップクリームを
トッピング。



フルーツゼリー3色3連
ストロベリー、グレープ、オレンジ、3つのおいしさ。



森永プリン
口あたりなめらか、プリンのスタンダード。

Sunkist



オレンジゼリー



ぶどうゼリー

お子様からお年寄りまで大人気のフルーツゼリー。

SUNKIST GROWERS, INC. のトレードマークライセンスにより産茶乳菓の販売する製品です。Sunkist, SUNKIST はSUNKIST GROWERS, INC. SHERMAN OAKS, CALIFORNIA 91423U.S.A. の登録商標です。



なめらか杏仁豆腐
クリーミーで上品な香りの漂う
なめらかな杏仁豆腐。



**Petit Pot (プチポ)
とろふわプリン こだわり卵のカスタード**
小さなカップにおいしさをぎゅっと詰めました。
やわらかなくちどけプリンです。



**グレープフルーツが食べたい!
つぶつぶ果肉たっぷり
グレープフルーツゼリー。**

商品のご紹介



アイスクリーム

MOW (モウ)
 ミルクバナナ/ミルクいちご/チョコレート/
 ミルクバナナモナカ/ミニカップマルチ
 濃厚ミルクのクリーミーな味わい。



pino (ピノ)
 ひとくちアイスの代名詞。



PARM (パルム)
 チョコレートバー/バナナバー/抹茶バー
 大人の味覚を満足させる、
 本格的アイスクリームバー。



クリスピーナ
 おいしさ本位のお洒落な
 シュガーコーンアイス。



チェリオ
 チョコ好きにはたまらない
 板チョコ入りバーアイス。

涼風堂
 抹茶/小倉/黒ごま/
 ゆず/栗入りあずきモナカ
 和風アイスの新定番。





チルド乳製品



スライスチーズ

トーストをはじめいろいろなお料理に。



とろけるスライス



チェダースライス



フレッシュモッツアレラ

北海道の新鮮な原乳を使用した本格派。



100%パルメザンチーズ

ひとふりでお料理の味を引き立てます。

カマンベール入り
6Pチーズ

フランス産「生」カマンベールを使用した、とろけるようになめらかなおいしさ。



切れてるチーズ

ナイフ不要、
はがすだけで
食べられます。



フィラデルフィア
クリームチーズ

適度な酸味と豊かなコク。
チーズケーキや
いろいろなお料理に。



北海道バター

北海道のフレッシュな
生乳から作りしました。



商品のご紹介



クリープ



詰め替え用ガセット クリープ・ポーション

豊かなコクと自然な甘さがコーヒーの美味しさをより一層引き立てます。

食品ドライ

森永ミルク 加糖れん乳

いちごはもちろん、パンやコーヒーなどにも幅広くお使いになれます。



森永Ca
ラクトフェリンスキム
話題のラクトフェリンと
ミルクカルシウム入り。



森永スキムミルク

低脂肪・高たんぱく。
料理にも大活躍。

New



森永コラーゲンスキム

ミルクカルシウムとコラーゲンを
手軽に摂取いただけます。

育児食品・栄養食品



森永ドライミルク はぐくみ

母乳に近い栄養成分。
ラクトフェリン配合。



森永ベプチドミルク Eお母さん

妊娠・授乳期のお母さんが
牛乳代わりに飲める
栄養補給飲料。



森永フォローアップミルク

チルミル
満9か月～3歳頃までの
栄養補給に。
ラクトフェリン配合・鉄分強化。

りんご 3ピンパック

赤ちゃんにやさしい
50%果汁飲料。



森永ベプチドミルク E赤ちゃん

ミルクのアレルゲン性に
配慮しています。
※ミルクアレルギー疾患用
ではありません。

イオン飲料 もも

体への吸収が良い
低浸透圧タイプの
水分補給飲料。





宅配専用商品

月極めご契約のご家庭に、1日当たり1本からお届けします。
専用の保冷受箱などもご用意し、皆様の健康づくりをお手伝いします。



森永カルダス

ミルクカルシウム2倍
(当社・普通牛乳比)、
ビフィズス菌 (BB536)
20億以上、鉄分1mg。
特定保健用食品。

※地域により、容器が異なりますが、
中身・容量に違いはありません。



森永 ラクトフェリン Fe

ラクトフェリン100mg、鉄分6mg、
ビフィズス菌 (BB536) 36億。
ミルクタイプの
ラクトフェリン入り低脂肪飲料。



絹ごしとうふ

長期保存できる
完全無菌パック。
厳選した大豆を使用し、
作りたての
おいしさ長持ちの
絹ごしとうふ。



毎朝爽快

ラクチュロースで
おなかの調子を良好に。
特定保健用食品。



もろみ黒酢

純玄米黒酢8ml、
琉球もろみ酢8mlを配合。
飲みやすいりんご味。



ラクトフェリンとビフィズス菌

いきいき元気のむヨーグルト/
おなかに配達ヨーグルト
ラクトフェリン100mg、
ビフィズス菌 (BB536) 100億以上、
ラクチュロース0.1gなどを配合。

お問合せ先

フリーダイヤル ☎ 0120-369-465

ミルク ヨロコブ

受付時間 月～金9:00～17:30
(祝日を除く)

<http://takuhaimilk.ne.jp>

森永ベビーフード

ママの気持ちで作った安心なベビーフードです。
(7ヵ月、9ヵ月、1才頃～)



野菜キッズ

New

レトルトシリーズ



New

3つのメニューセット

New

おでかけに便利な
ごはんとおかずのセット



ネットワーク

◆ 国内ネットワーク

森永乳業は、本社・支店、工場、研究所など38事業所および関連会社を中心に、グループ企業、海外提携企業など、世界にまでそのネットワークを広げています。



工場見学のご案内

■ 東京多摩工場/大和工場

主な製造製品

東京多摩工場：牛乳・果汁飲料・ヨーグルト

大和工場：クリープ・育児用粉ミルク

住所：東京都東大和市立野4-515

1団体5~130名でいたします。

お子さまの見学は小学生から承っております。

お申し込み・お問い合わせ先

森永乳業(株) (本社) お客さま相談室
 0120-369-744

■ 中京工場

主な製造製品：牛乳・アイスクリーム

住所：愛知県江南市中奈良1丁目1番地

1団体15~90名でいたします。

50名以下であれば体験学習もできます。

お申し込み・お問い合わせ先

森永乳業(株) (東海支店) お客さま相談室
 052-936-1521

■ 神戸工場 New

主な製造製品：乳飲料、ヨーグルト、流動食

住所：兵庫県神戸市灘区摩耶埠頭3番

1団体15~100名でいたします。

お子さまの見学は小学生から承っております。

お申し込み・お問い合わせ先

森永乳業(株) (関西支店) お客さま相談室
 06-6341-0271

◆ グローバルネットワーク

日本でもすっかり人気定着している「リプトン」「サンキスト」「クラフト」などは、実は森永乳業の提携ブランド。グローバル企業との固いパートナーシップ、森永乳業の実力は世界で評価されています。



提携ブランド



Kraft Foods Inc.

クラフトは米国最大の食品企業。1970年に技術提携。



Unilever Japan Beverage K.K.

Liptonは英国の世界最大の紅茶メーカー。1984年に技術提携によりLipton Japan K.K. が誕生。2005年社名を変更。



Sunkist Growers, Inc.

米国のサンキストといえば、フルーツの代名詞。日本では森永乳業が果汁やデザート製品を幅広く販売。



Fauchon

フランスが世界に誇る食のブランド。日本では森永乳業グループがアイスクリームを販売。



PT. Kalbe Farma Tbk.

インドネシア最大の製薬および食品メーカー。1986年、技術供与により育児用粉乳の現地製造を開始。

現地法人・合併会社



Morinaga Nutritional Foods, Inc.

1985年米国ロサンゼルスに設立。森永の技術で長期保存が可能になった「TOFU」を全米で販売。



Morinaga Nutritional Foods Deutschland GmbH

1995年ドイツシュツットガルトに設立。現地でビフィズス菌など機能性原料を販売。



Fromagerie Lorraine de Vezelise S.A.

1991年、三井物産株式会社およびフランスの4社とともにフランス国内に設立。ナチュラルチーズを製造。



Milei GmbH

スウェーデン、ドイツ、日本の4企業で1972年に設立。乳糖、ホエー粉末、ラクチュロース、ラクトフェリンなどを生産。



Harbin Morinaga Milk Ltd.

1994年中国国営企業および三井物産株式会社とともに、ハルビン市に設立。中国国内で育児用粉乳を製造・販売。



PT. Kalbe Morinaga Indonesia

インドネシア最大の製薬メーカーであるPT. Kalbe Farma社との合併による、育児用粉乳の製造会社。

会社概要

■ 会社の概況 (平成19年3月31日現在)

商 号	森永乳業株式会社 MORINAGA MILK INDUSTRY CO.,LTD.
創 業 年 月 日	大正6年9月1日 (日本煉乳株式会社)
設 立 年 月 日	昭和24年4月13日
資 本 金	21,704,355,355円
従 業 員 数	3,036名
会 計 監 査 人	新日本監査法人 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル
主要な事業内容	市乳 (牛乳、乳飲料、ヨーグルト、プリン)、 乳製品 (練乳、粉乳、バター、チーズ)、アイ スクリーム、飲料、流動食など 飼料、プラント設備の設計施工など

■ 役 員 (平成19年3月31日現在)

代表取締役会長	大 野 晃
代表取締役社長	古 川 紘 一
専 務 取 締 役	井 上 邦 昭
専 務 取 締 役	小野田 顯 正
専 務 取 締 役	片 岡 伸 好
常 務 取 締 役	石 井 忠 忠
常 務 取 締 役	高 橋 正 宏
常 務 取 締 役	小久保 貞 之
常 勤 監 査 役	高 岡 昌 昭
常 勤 監 査 役	北 原 彰 彰
監 査 役	松 澤 泉 泉
監 査 役	八重田 敏 夫

■ ホームページのご案内

森永乳業のホームページでは、「森永のおいしい牛乳」や「森永アロエヨーグルト」、「プティポ とろふわプリン」など商品オリジナルサイトを順次追加しております。さらに、「商品情報」や「CM情報」、「ヘルシーキレイレシピ集」の情報の更新、出張スタイルの料理教室「M's Kitchen」のご案内や、皆様の生活をサポートする機能性素材「ラクトフェリン」のご紹介など、内容の充実をはかっております。

また、文字拡大や音声での読み上げといった閲覧支援ツールや、知りたい情報を検索できるサイト内検索など、快適にお使いいただくための機能を取り入れております。

ぜひアクセスしてみてください。

ホームページアドレス

<http://www.morinagamilk.co.jp>



株式情報

株式の状況

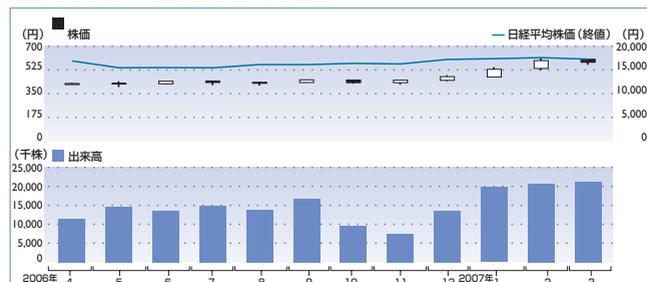
発行可能株式総数	480,000,000株
発行済株式の総数	253,037,974株 (自己株式939,244株を除く)
株主数	33,403名

大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
森永製菓株式会社	26,248千株	10.37%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,865千株	6.26%
株式会社みずほ銀行	12,431千株	4.91%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,941千株	4.71%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	8,602千株	3.39%
株式会社みずほコーポレート銀行	7,303千株	2.88%
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,942千株	2.74%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井アセット信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	6,644千株	2.62%
三菱UFJ信託銀行株式会社	4,617千株	1.82%
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナル・リミテッド	3,929千株	1.55%

(注) 出資比率は発行済株式の総数から自己株式数を控除した数に基づき、算出しております。

株価・出来高の推移



株式のご案内

事業年度 4月1日から翌年3月31日

配当金受領株主確定日 毎年3月31日

公告方法

当会社の公告は、電子公告により行います。
事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

株主名簿管理人

株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(連絡先)

東京都江東区東砂七丁目10番11号 (〒137-8081)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

同取次所

三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

株主優待のお知らせ

株主のみなさまの日頃のご支援にお報いするために9月末日を基準に昨年同様当社商品「絹ごしとうふ」をお届け申し上げます。

事務手続きのお知らせ

■ 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買増・買取請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-244-479 (24時間・自動音声対応)にて承っておりますので、ご利用ください。

ご注意 当社は中間配当制度を採用しておりません。



緑のアロエ。

キレイのために、
No.1*アロエヨーグルト。

*ACNielsen調べ 1994年発売
以来アロエ入りヨーグルト内
販売金額シェアNo.1



赤いアロエ？

砂漠のフルーツ
“カクタス”の赤い果汁入り



森永アロエヨーグルト



おいしいをデザインする

森永乳業株式会社

東京都港区芝五丁目33番1号

電話03-3798-0111



この報告書は、環境に配慮し、古紙配合率100%再生紙を使用し、有機溶剤の少ない大豆インキで印刷しています。